上り身丈＋前下り－竪衿下＋丸味＋縫代＝竪衿丈
108cm　2cm　25cm　3.6cm　5cm　93.6cm

{總用布－(4袖丈＋2竪衿丈＋2前後の差＋小衿布)}÷4
1095cm　58cm　93.6cm　6cm　77cm

＝後身丈
146.7cm

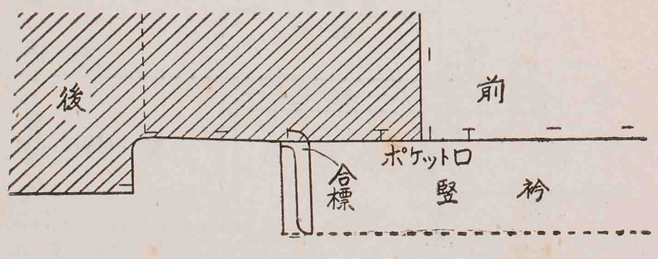
後身丈＋前後の差＝前身丈
146.7cm　6cm　152.7cm

標附方(道行角衿と異る點)

小衿附

竪衿の上に前褄の竪衿附標を合せて重ねる.

第二百三十圖



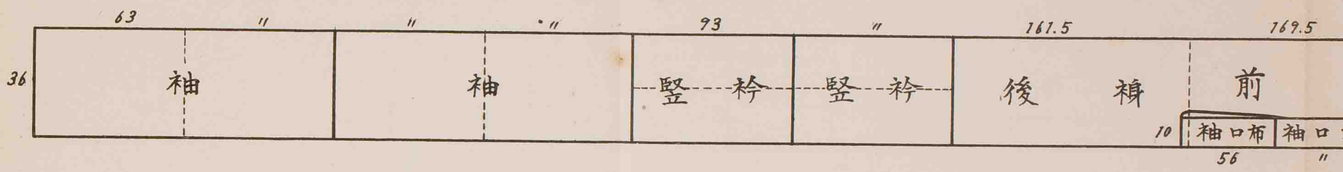
1　小衿附

小衿型紙の衿附線を竪衿下と竪衿上部とに當てゝ平に置き,型紙通りに衿附の標を附ける。

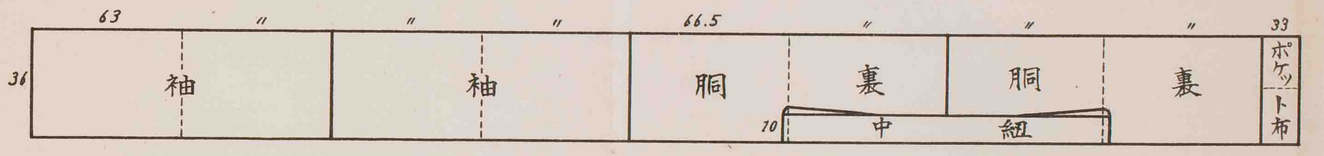
2　裏竪衿

裏竪衿は小衿幅を續けて取り,表裏共に 1cm の縫代を

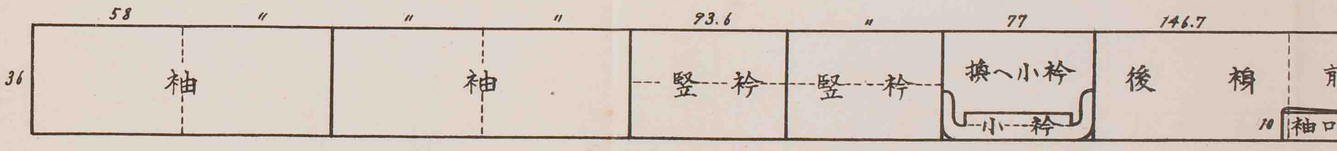
第二百十七圖



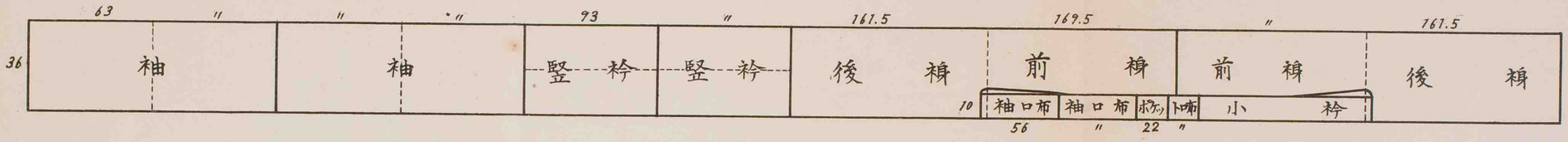
第二百十八圖



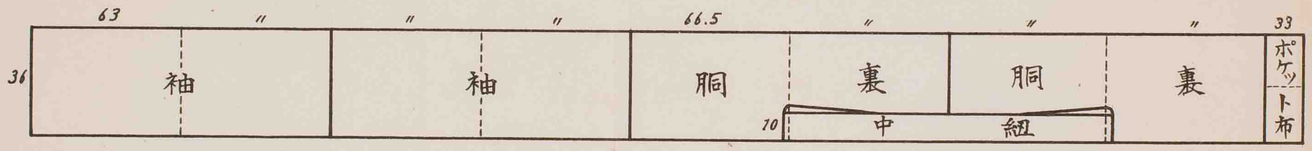
第二百二十九圖



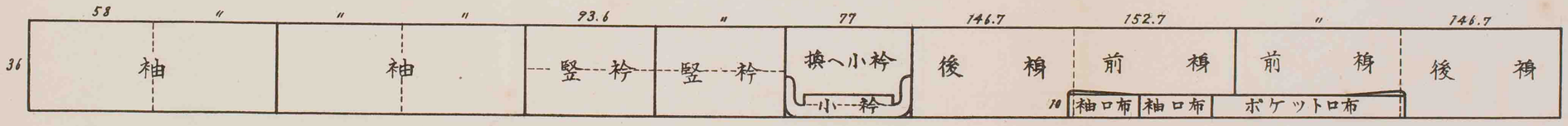
第二百十七圖



第二百十八圖



第二百二十九圖



附けて裁ち切る。

3　合　標

衿附縫代の丸味止と丸味中央とに合標を附ける。

小　衿

竪衿と小衿の縞柄等を良く合せて位置を定め,小衿の型紙を置く.

1　型紙の通りに標を附け,周圍に 1cm の縫代を附けて裁つ。

2　褄に合せて衿附縫代に合標を附ける。

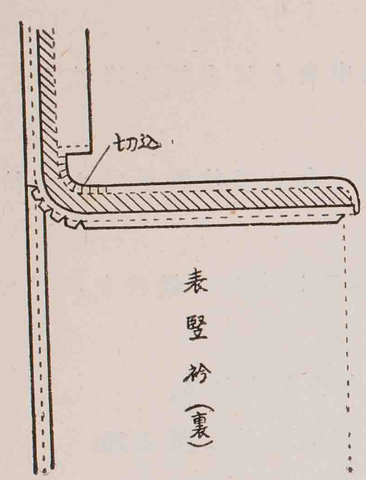
仕　立　方(道行角衿と異る點)

小　衿

芯を型紙通りに裁ち,表衿の裏側に重ねて中央を鞍で押へ置く。

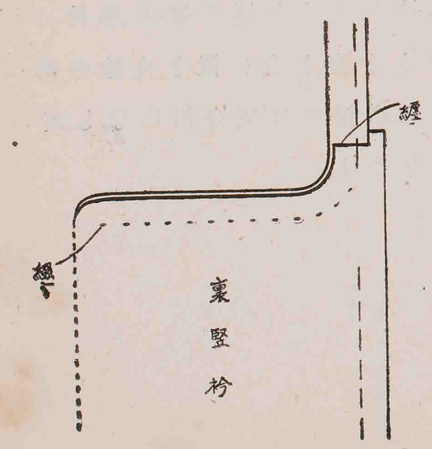
衿附縫代を裏に折り,小衿の丸味を縫ひ縮め,竪衿は切込を入れる。小衿と竪衿とを突き合に置き,丸味の間は合標を合せて待針を打ち,掛接又は突合絎になし,其の他は角衿と同様に衿附をなす。

第二百三十一圖



竪衿幅を中表に折り,小衿の上部と小衿の裏とを縫ひ合せ,(裏幅を 0.1 cm 控える) 衿先の丸味を作り,内側丸味の所に切込を入れ,良く伸して裏衿の方に折返す。

第二百三十二圖



竪衿幅の間は裏竪衿に小針を出して次圖の如く綴ぢ,丸味上部の裁目には裏小衿を折り附けて纏る。

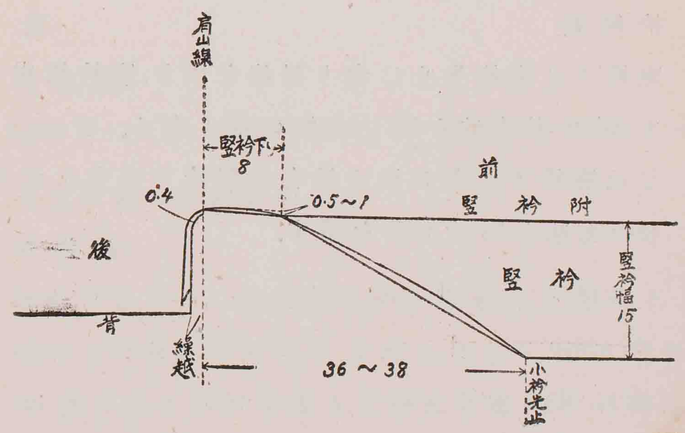
絲　瓜　衿

所要仕立上寸法

袖　丈	70cm
前　下	3cm
竪衿下	8cm
身　丈	105cm
繰　越	2cm

小衿型紙の取方

第二百三十三圖　袖



順序

1　肩山線

2　脊線

3　裁切衿肩明

4　仕立上衿肩明

5　竪衿下

仕立上衿肩明より肩山線に垂直線を出し,竪衿下の點にて,衿肩明の方へ0.5cm乃至1cm寄せて斜線を引く。

6　竪衿附線

竪衿下より下に肩山に當て垂直線を引く。

7　竪衿幅

竪衿附に平行に15cmの竪衿幅を引く。

8　小衿先止

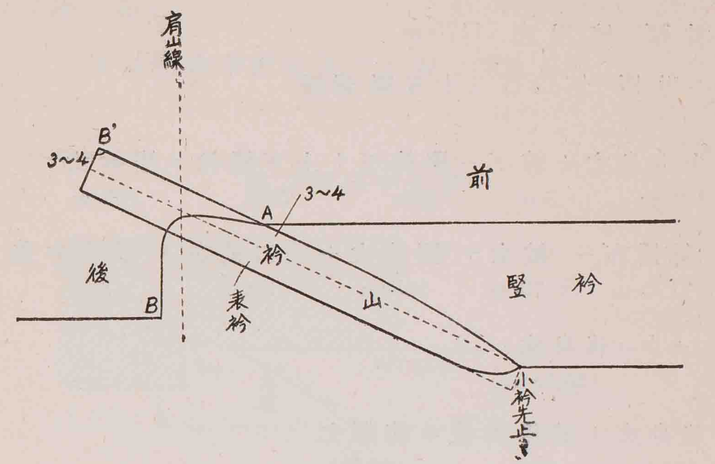
肩山より竪衿幅に當り36cm乃至38cmに度る。

9　衿附線

竪衿下と竪衿先止に當り斜線を引き,竪衿幅中央にて1.5cm位丸味を附けて圖の如く刳る。

なほ竪衿下に角の出る場合は竪衿下中央にて0.2cm位の丸味を附けて角を消す。

第二百三十四圖　小衿



順序

1　衿山線

竪衿下にて衿幅(裏衿幅)を3cm乃至4cmに取り,小衿先止に當て斜線を引く。

2　衿附線

竪衿下より上に衿山線に平行線を引く。竪衿下より仕立上衿肩明即ちABを度り,之より0.4cm乃至0.6cm多くしてAB'を度りて衿丈を定め,B'に垂直線を引く。

3　表衿幅

裏衿幅と同寸又は0.4cm廣くして,衿山に平行線を引き衿先に丸味を作る。

表

並幅　總用布　1170cm

附圖　第二百三十五圖參照

上り身丈＋前下－竪衿下＋上下縫代＝竪衿丈
105cm　3cm　8cm　5cm　105cm

{總用布－(4袖丈＋2竪衿丈＋袖口補布＋2前後の差)}
1170cm　73cm　105cm　30cm　8cm

÷4＝後身丈
155.5cm

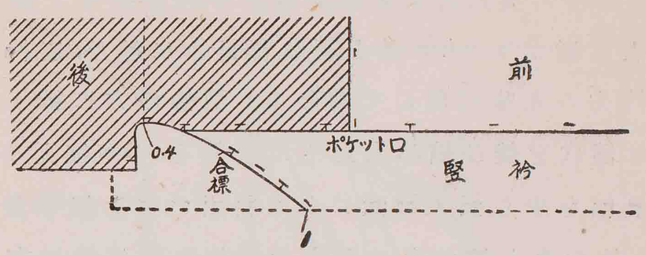
後身丈＋前後の差＝前身丈
155.5cm　8cm　163.5cm

標附方(角衿と異る點)

小衿附

竪衿の上に竪衿附標を合せて,袵を重ねる。

第二百三十六圖



1　小衿附

袵及び竪衿の型紙を上に正しく置き,衿附線の標を附け,肩山にて 0.4cm, 竪衿下より小衿先止までを 1cm の縫代を附けて裁ち切る。

2　合標

衿附縫代に竪衿下及び竪衿幅の間に衿附の合標を附ける。

小衿

中表に丈二つに折り,表裏小衿を正しく重ねて,小衿の型紙を上に置く。

1　型紙の通りに標を附け,外側に 1.4cm 衿附に 1cm の縫代を附けて裁ち切る。

2 合　標

褄に合せて衿附縫代に合標を附ける。

仕立方(道行角衿と異る點)

小　衿

表小衿の裏に芯を重ね,表裏の小衿を合せて衿の外側を,表は標より 0.4cm 外を,裏は標通りに縫ひ,(表衿の緩みは衿先の丸味の所にて納める。) 裏衿の方に折り,丸味の間は縫代を縫ひ縮め,表返して裏衿を 0.2cm 控えて躾を掛け,裏幅を少し張り加減にして衿附の方を綴ぢ置く。

小衿の裏と褄の表とを合せて衿を附け,褄の方に折り返し,表衿の縫代を綴ぢ,其の上に裏褄を衍け附ける.

『備　考』

地質の厚きものは衿附縫目を割り,表衿を縫代に綴ぢ附けて,裏褄を上に衍け附ける。

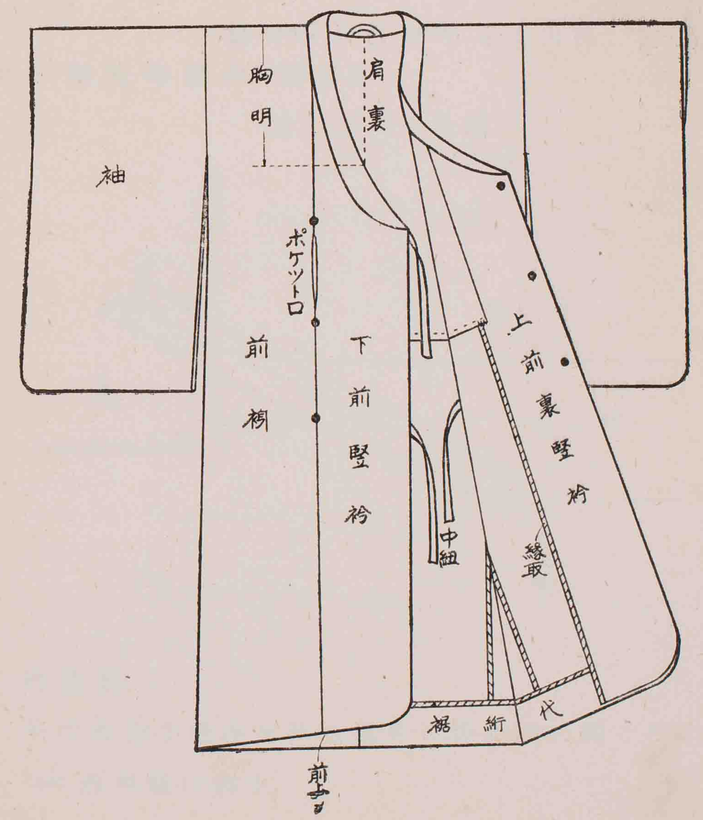
上部中紐附

下前小衿先裏側と上前裏身八つ口止とに附ける。

第三十章　單長コート

各部の名稱

第二百三十七圖　前



裁切寸法の定め方

身　丈　上り身丈に裾絎代を厚地物は 8cm 內外，薄地物は 10cm 內外加へる。

竪衿丈　上り身丈より竪衿下と前上寸法とを減じ，上下縫代 5cm を加へる。

但し道行丸衿は丸味寸法を加へる.

肩裏丈　肩山より 50cm 乃至 70cm 位

絲　瓜　衿

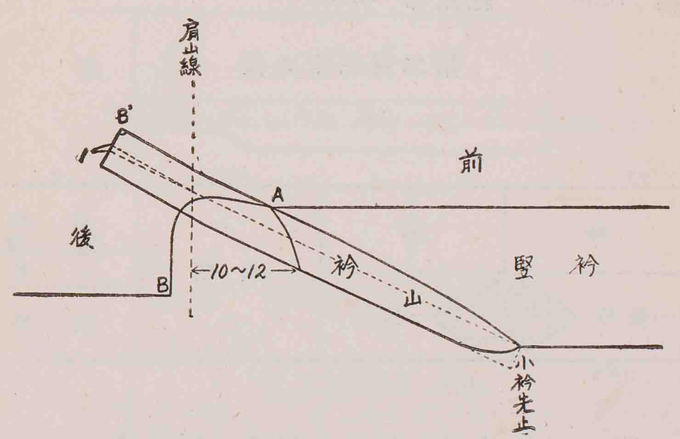
裁　方　積　方

所要仕立上寸法

袖　丈	70cm	身　丈	129cm
繰　越	3cm	竪衿下	8cm
前　上	2cm		

小衿型紙の取方（厚地物）

第二百三十八圖



1　衿山線

衿の外側に緩みを作る爲めに，衿肩明の間で衿山を 1cm 內外後に倒す.

2　衿附線

衿山線に平行線を引き，衿丈を定めること前と同樣.

3　衿　幅

衿幅は裏衿幅と同寸又は 0.4cm 廣くなし,衿山に平行線を引く。但し肩山近くにて衿幅に角の立たぬやうに注意す.

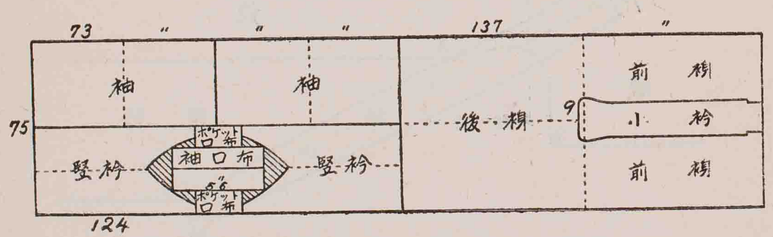
4　裏小衿を竪衿に續ける時は,圖の如く肩山より 10cm 乃至 12cm 下りたる點と竪衿下とを結びたる線にて衿を切り離す.

表

幅　75cm　　總用布　566cm

第二百三十九圖

(其　一)

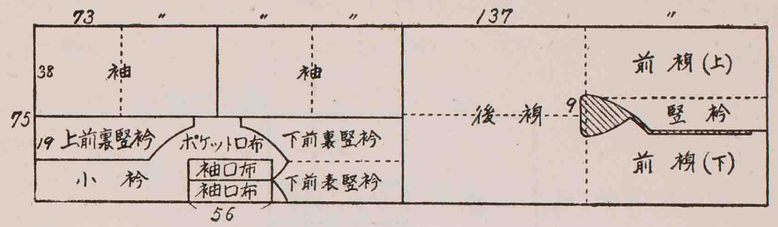


上り身丈－(竪衿下＋前上)＋縫代＝竪衿丈
129cm　　8cm　　2cm　　5cm　　124cm

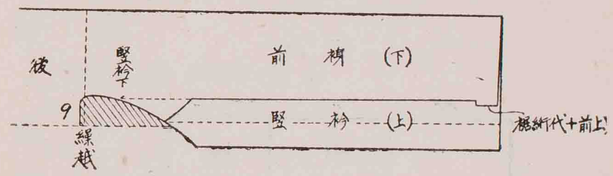
上り身丈＋裾絎代＝身丈
129cm　　8cm　　137cm

袖丈＋身丈＝總用布
73cm　　137cm　　566cm

(其　二)　(上前竪衿附縫目なし)



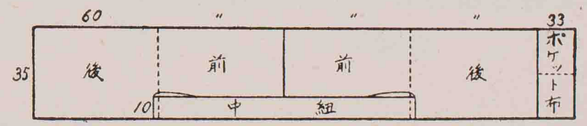
第二百四十圖　前襠の裁切方



肩　裏

並幅　　總用布　273cm

第二百四十一圖

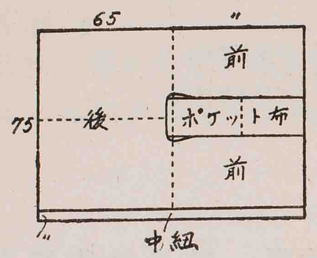


肩裏＋ポケット布＝肩裏總用布

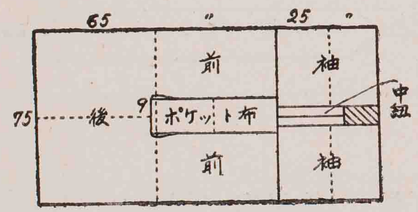
幅　75cm

第二百四十二圖

（其　一）



（其　二）



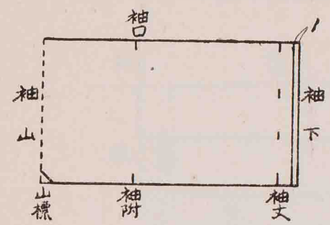
『備　考』

肩裏丈短き場合はポケット布を別布にて取る。

標　附　方

袖

第二百四十三圖



中表に二枚合せて,後袖を 1cm 長くして丈を二つに折る。

1　袖　丈

上り袖丈に 0.2cm 加ふ

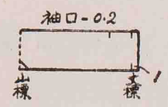
2　袖　口

3　袖　附

4　山　標

袖　口　布

第二百四十四圖



中表に二枚合せ,丈を二つに折る。

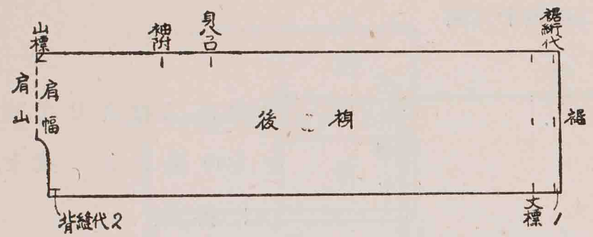
1　丈　標

2　袖　口

3　山　標

後　褙

第二百四十五圖



中表に二枚合せて丈を肩山より二つに折る。

1　丈標及び裾絎代

2　袖　附

3　身八つ口

4　脊縫代(大幅物は脊を輪のままになす。)

5　肩　幅

6　山　標

『備　考』

薄地物は裾を三折にするか又は裁目より 1cm 取りて殘りを裾絎幅となす。

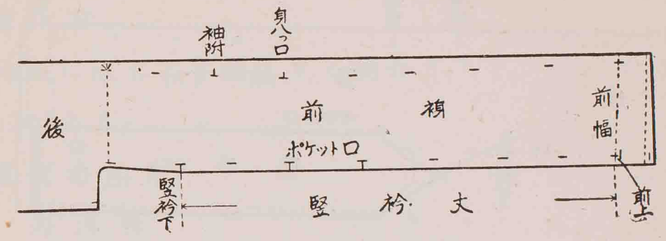
厚地物及び裁ち目を縁取りするものは身丈の殘りを裾絎幅となす。

前褙及び竪衿

其の一 (竪衿別)

後褙を左に開く。

第二百四十六圖　**前　褙**



1　竪衿下

2　前　上

3　竪衿附

4　抱幅及び前幅

5　ポケット口　肩山より口下り寸法を度り,口明標を竪衿附け縫代に附ける。

竪　衿

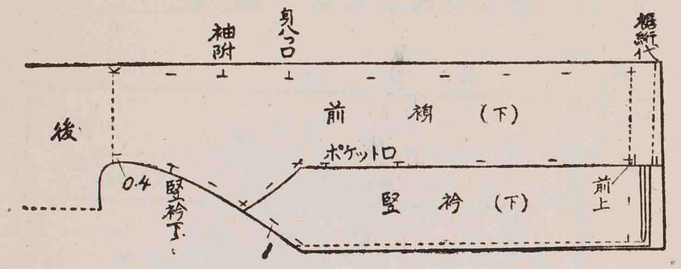
1　竪衿丈　褙と同寸

他は袷半コートに同じ。

其の二（上前竪衿附縫目なし）

上前褙は竪衿の續きたるままにて,下前褙と中表に合せる。

第二百四十七圖　前褙及び竪衿



1　前上

2　上前表竪衿の上に上前裏竪衿及び下前竪衿を幅二つに折りて重ね,其の上に下前褙を圖の如く置く。

3　竪衿裾　前褙の裾標を其のまま延して標を附ける。

4　竪衿附　下前のみに 1cm の縫代を附ける。

5　竪衿接代　下前表竪衿に 1cm の接代を附ける。

6　抱幅及前幅

7　竪衿幅　下前竪衿幅に合せて上前竪衿に標を附ける。

8　ポケット口　小衿先止より 2cm 乃至 4cm 下りたる所より口明 15cm を下前竪衿附縫代に附ける。

9　衿附合標　衿附縫代に,竪衿下及び竪衿幅中央の合標を附ける。

仕立方注意

縫方

地質に應じて手縫にする場合と,ミシン縫にする場合とがある。

縫代の始末

1　薄地物

耳を三折となし 1cm 乃至 1.5cm の針目にて三折絎をなす。

2　折の附きにくき地質

耳を折り,折山より 0.3cm 位中にミシンを掛け,ミシン縫の所を奥纏をする。

3　厚地物

肩裏の共布又は似寄りたる斜布を縫代の端の表側に當て 0.3cm の深さに縫ひ,縫目を包んで緣取をなし,其の縫目の際に表より落しミシンを掛け,ミシン縫の所を奥纏をなす。又裁目のまま千鳥縫,或は八字縫にする場合もある。

仕立方

順序

1 袖
2 背縫
3 脇縫
4 裾の假綴
5 竪衿附
6 ポケット附
7 裾絎
8 竪衿裾縫
9 裏竪衿の始末
10 肩裏
11 小衿附及び小衿絎
12 袖附及び振八絎
13 肩裏の始末
14 仕上
15 釦及びスナップ,中紐附

方法

1 袖

單羽織に同じ

2 脊縫

脊を縫ひ,縫目を割る,手縫になす場合は袷半コートの如く裾山を返縫にし,其の他は小針に縫ふ。次に肩裏丈の所より,裾絎代までの間を,地質に應じて縫代の始末をする。

3 脇縫

脇を縫ひ,縫目を割り,脊と同様に縫代の始末をなす。(肩裏の中は粗く耳絎をなす。)

4 裾の假綴

裾を折り,鞍を掛け置く。

5 竪衿附

表竪衿を附け,縫目を割る。

6 ポケット附

下前竪衿附に縫目あるものは,縫目に縦明ポケットを附け,縫目なきものは,上前裏竪衿に切ポケット又は内ポケットを附ける。

其の一　縦明ポケット

袷半コート同様。

其の二　切ポケット

(1) 先づ口明標を附け,(形は隨意)標の裏側に芯布を當てて,鞍にて押へ置く。

(2) 表より口明標の兩側に縁布を突き合せに置き,0.3cmの深さに縫ひ,口明標の兩端を0.5cm位殘して切込を入れ,兩端の縫目に當てて >——< 形の切込を入れる。

(3) 縁布で縫代を包んで裏へ折り返し,鞍で押へ置く。

(4) ポケット布を縁取の裏側に當て,(下側の口に附く袋布は縫代を下に向ける。)縁布の際に落ミシンを掛ける。

(5) 口明の兩端の三角形の布を裏へ折り,裏側より縁布とポケット布全部に針を掛けて留をする。

(6) ポケットの底を縫ふ。

其の三　内ポケット

(1) 上前裏竪衿とポケット布の口明標を合せて0.2cm淺く縫ひ,ポケットの方へ折り返す。

(2) 肩裏と一方のポケット布との口明標を合せて同樣に縫ひ,ポケット布を0.1cm控えて躾を掛ける。

(3) 裏竪衿と肩裏を合せて,ポケット口明の上下を縫ひ合せ,肩裏の方へ折り返す。

(4) ポケット布の上下を縫ひ,口明下を竪衿附縫代に綴ぢ附け,上は縦明ポケットの如く,千鳥縫とする。

『備考』

ポケット布は,肩裏丈長き場合は裏布にて取り,短き時は裏表の布にて各一枚づつ取る。

7　裾　絎

裾口裁目を他の縫代と同樣に始末する。

8　竪衿裾縫

袷半コートと同方法にて裏竪衿幅の間を縫ふ。但し丸味を作る場合は,縫ひ縮めて襞を平になし,裏竪衿に綴ぢ附け置く。

9　裏竪衿の始末

裏竪衿附を肩裏の間は縫ひ合せ,肩裏の方へ折りを附け,其の所を表裏綴ぢ合せ,それより下は縫代1.5cmにして,他の縫代と同樣に始末をなし,褄の竪衿附縫代を其の上に重ね,千鳥縫にする。

10　肩　裏

(1) 背と脇を縫ひ,縫目を割る。(極く薄地物は片返になす。)

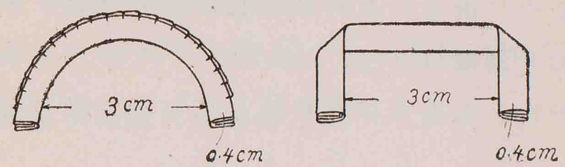
(2) 裾は三折絎にする。

(3) 褄に合せて背脇を綴ぢる。

11　小衿附及び小衿絎

袷半コートに同じ。但し掛紐は斜布又は縦布にて圖の如く作り,衿絎の前に(背上部の裏)衿附縫代に縫ひ附ける。

第二百四十八圖



12　袖附及び振八つ絎

袖を附けて縫目を割る。

振八つを折り,他と同樣に縫代の始末をする。

13　肩裏の始末

袖附の間は縫目の際に,身八つ口は0.2cm控えて肩裏幅を折り,褄に絎け附ける。

肩裏の脇,及び竪衿附の下部を,褄縫代に千鳥縫にて附ける。

14　仕　上

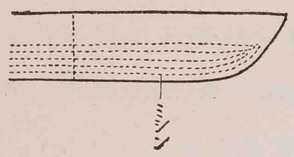
15　釦及びスナップ,中紐附

竪衿下部の釦は,ポケット口明止より20cm内外下

りたる位置に附け,他は袷半コート絲瓜衿と同樣。

『備考』　裏小衿に接ぎある場合(第二百十二圖(其の二)參照)

第二百四十九圖



(1) 裏小衿の裏に小衿芯を重ねて,衿山より內側は0.4cm 位の間隔にミシンを掛け,衿山に折を附け,卷縫にす。

(2) 表竪衿に續きたる衿にも裏に芯を重ねて折を附け,衿山を卷縫にする。

(3) 裏小衿を表褄及び竪衿の上部に縫ひ附け,縫目を割る。

(4) 衿の外側を表は標より 0.4cm 外を,裏は標通りに縫ひ合せ,小衿先止より小衿先止までを縫ひ,裏小衿の方へ折を附け,表返して裏を 0.2cm 控えて躾を掛ける。

(5) 衿を衿山より折り返し,衿幅の釣合を見て,裏小衿附の間は縫代に針を掛け,竪衿の續きたる衿は表に小針を出して衿附縫代を綴ぢ附ける。

道行角衿

裁方積方

所要仕立上寸法

袖丈	60cm	身丈	129cm
繰越	3cm	竪衿下	25cm
前上	2cm		
並幅總用布	1022cm		

附圖 第二百五十圖參照

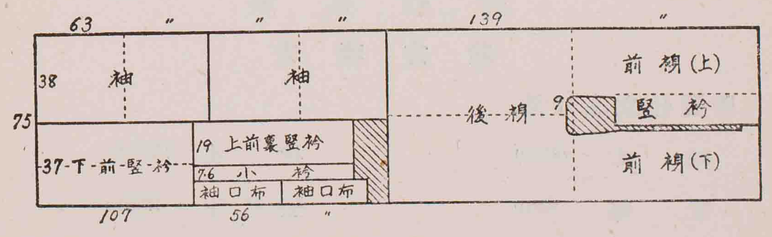
上り身丈－(竪衿下＋前上)＋上下縫代＝竪衿丈

上り身丈＋裾絎代＝身丈

^{4}(袖丈＋身丈)＋^{2}竪衿丈＝總用布

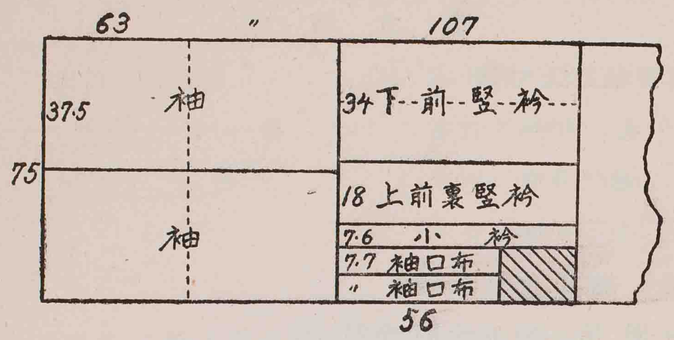
幅　75cm

第二百五十一圖 (其の一)



^{4}袖丈＋^{2}身丈＝總用布

（其の二）



2(袖丈＋身丈)＋竪衿丈＝總用布

標附方及び仕立方（絲瓜衿と異る點）

小衿

袷半コートと同樣.

道行丸衿

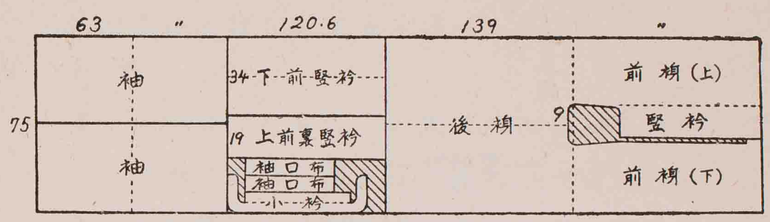
裁方積方

所要仕立上寸法

袖丈	60cm	身丈	129cm
繰越	3cm	竪衿下	25cm
前上	2cm		

幅　75cm　總用布　524.6cm

第二百五十二圖



上り身丈－(竪衿下＋前上)＋丸味＋上下縫代＝竪衿丈

千代田衿

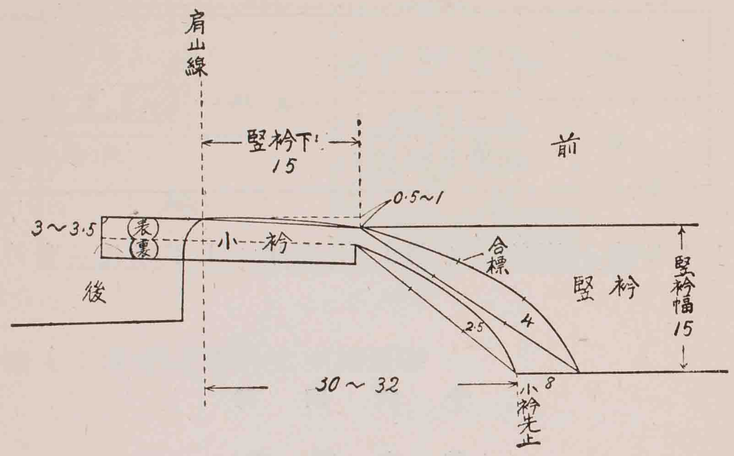
裁方積方

所要仕立上寸法

袖丈	70cm	身丈	129cm
繰越	3cm	竪衿下	15cm
前上	2cm		

小衿型紙の取り方

第二百五十三圖



『順序』

1　肩山線
2　背　線
3　上り衿肩明
4　竪衿下
5　竪衿附線
6　竪衿幅
7　小衿先止
8　小衿幅
9　衿附線

竪衿下と小衿幅止に當てて圖の如く斜線を引き,斜線の衿先より三分の一入りたる點にて 4cm 位の丸味を作りて衿附線を引く。

尙竪衿下に角の立つ場合は,竪衿下中央にて 0.2cm 位の丸味を持たせて角を消す。

10　小衿

衿山は斜線の三分の一の點にて圖の如く丸味を作りて刳り,竪衿下を引き伸し,丸衿と同樣に衿丈を定めて垂直線を作り,衿附線に平行に衿山線と裏衿幅線を引く。

11　衿附合標

竪衿下,竪衿幅の間に合標を附ける。

並幅　總用布　1152cm

附圖　第二百五十四圖參照

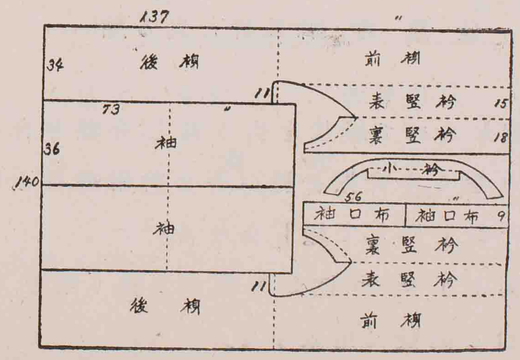
上り身丈－(竪衿下＋前上)＋上下縫代＝竪衿丈

上り身丈＋裾絎代＝身丈

^{4}袖丈＋身丈)＋^{2}竪衿丈＋補布＝總用布

幅　140cm

第二百五十五圖



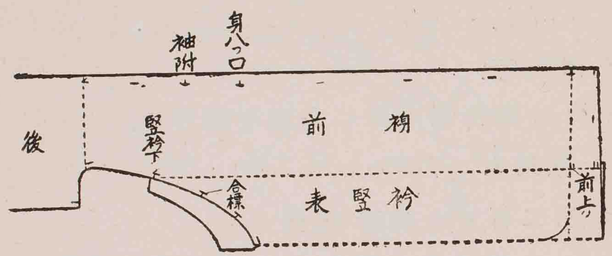
上り身丈＋裾絎代＝身丈

身丈×2＝總用布

標　附　方

前裾及び竪衿

第二百五十六圖



1　前　上

前上標を附け,之を引き伸し竪衿先に丸味を附ける。

2　ポケット口

3　衿附合標

仕　立　方（絲瓜衿と異る點）

小　衿

表小衿に芯を入れて縫代を折り返し,合標を合せて細く縫ひ,縫目を割り,小衿先を縫ひ合せ,衿附縫目を竪衿の間だけ裏に小針を出して綴ぢ合せる。

裏小衿を表より 0.1cm 控えて折りて纏り附け,竪衿下より上は丸衿と同様に始末する。

第三十一章　總裏長コート

裁切寸法の定め方

表は單長コートと同様。

裏身丈

上り身丈と同様に裁ち切る。

裁　方　積　方

裏

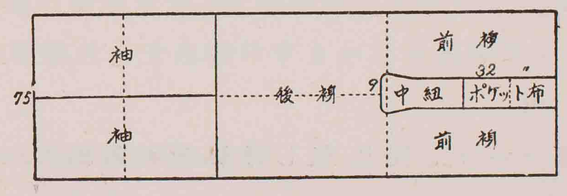
並　幅

附圖 第二百五十七圖 參照

(袖丈＋身丈)×4＝裏總用布

幅　75cm

第二百五十八圖



(袖丈＋身丈)×2＝裏總用布

標　附　方

袖

袷羽織と同じ。

表　裾

單長コートと同様。

裏　褙

裏身丈は表身丈より 3cm 乃至 4cm 短くなす。

他は表褙と同じ。

仕　立　方

順　序

1　袖
2　表　褙
3　ポケット附
4　裏背脇縫
5　裏裾絎
6　裏竪衿附
7　竪衿幅及び同裾縫
8　縦　綴
9　身八つ口縫
10　袖　附
11　小衿附及び小衿絎
12　裾の始末
13　仕　上
14　釦,スナップ及び中紐附

方　法

1　袖

2　表　褙

單長コートと同じ。但し背,脇,竪衿附縫代は割りたるままとし,裾は千鳥縫又は八字縫とする。

3　ポケット附

4　裏背脇縫

5　裏裾絎

前後裾を三折絎にする。

6　裏竪衿附

裏竪衿と裏褙とを合せて裏褙裾山まで縫ひ,褙の方へ折を返す。

7　竪衿幅及び同裾縫

表裏竪衿幅を合せて縫ひ,縫目を割り,毛抜合になし,竪衿裾は,單長コートと同様になす。

8　縦　綴

竪衿附,脇縫,背縫の順に縦綴をなす。

9　身八つ口縫

10　袖　附

11　小衿附及び小衿絎

12　裾の始末

裾絎代の間は裏竪衿附縫代を,表裾絎代に千鳥縫にするか又は折りて纏り附ける。

次に裏の裾山を背,脇,竪衿附の各縫目を 6cm 程の間を表裾絎代に千鳥縫にするか又は奥纏をなす。

13　仕　上

14　釦,スナップ及び中紐附

『備　考』

裾の始末別法

表裏の裾を縫ひ合せた後で縦綴をなす方法もある。

竪衿に隠釦を附ける場合

上前竪衿を比翼仕立にする。

比翼の仕立方

釦の位置は長コートと同様なるも,上下釦の間は適宜等分して位置を定める。

口明寸法は釦の位置より上は 2cm 下は 3cm 乃至 4 cm長くなす。

比翼布は裏布を用ひ,幅 6cm 丈口明寸法に上下縫代 1 cm づつ長きものを二枚と芯布一枚とを取る。

(1) 比翼布に芯を重ねて躾を掛ける

(2) 上前裏竪衿の幅標より 0.2cm 淺き所と,比翼布とを合せて口明を縫ひ,芯布の縫代を切り取り,裏を 0.2cm 控えて躾を掛ける。

(3) 釦穴は釦の直徑に厚味を加へた寸法を端より 1.2cm 入りて明け,裏竪衿の方より穴滕をなす。

(4) 表竪衿も裏竪衿と同様に比翼布を附ける。

(5) 表裏竪衿を合せて,口明の上下を縫ひ,縫目を割り,毛抜合となす。

(6) 比翼布の上下奥の三方を縫ひ合せ,縫代を裏竪衿に目立たぬ様に綴ぢ附ける。

(此時裏竪衿の上に比翼布を平に置き,ミシンを掛けることもある。)

(7) 口明止と穴と穴との中央に門留をなす.

375.5
W46
3
昭和65年11月12日
資登 1824

昭和十二年八月廿五日　印刷
昭和十二年八月三十日　發行

專門學校用
裁縫要義　下卷

定價　金二圓五十錢

著者　渡邊女學校 東京女子專門學校 裁縫研究會

東京市本郷區湯島六丁目廿一番地
發行者　渡邊女學校出版部
代表者　渡邊滋

東京市淀橋區西大久保三ノ一〇六番地
印刷者　山口誠造

東京市淀橋區西大久保三ノ一〇六番地
印刷所　大和屋活版印刷所

東京市本郷區湯島
發行所　渡邊女學校出版部
電話小石川(85)八〇五二番 八〇五三番 八〇五四番
振替口座東京一九八二〇番

101068